

第三章

動物救護活動を支えたもの

C · O · N · T · E · N · T · S

救援物資	
ペットフード	61
ペット用品	62
医薬品	64
ボランティア活動を支えた救援物資	65
義援金	
義援金の収支	66
全国からのお手紙	67
「兵庫県南部地震動物救援本部義援金収支一覧表」	69
マスメディアの対応	70
救援グッズ	
背景	71
有志グループ	71
救援グッズのデザインと製作	71
販売と売り上げ	72
近畿、地方獣医師会、ならびに 愛護団体の対応	
近畿地区連合獣医師会	73
(社)横浜市獣医師会	73
愛護団体の果たした役割	73

救 援 物 資

1月17日未明、近代都市を襲った大地震の惨状は、テレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを通して全国民に伝えられていった。

現地では、人命最優先の救助活動が始まった。大規模な火災の消火活動、負傷者の収容と治療、そして避難者の手当、ライフラインの確保など、国の総力をあげて、災害救助が行われた。

こうした状況のなかで、人命救助とほぼ同時に「動物救助」の気運が芽生えていた。人命が優先されることは云うまでもない。しかし、それぞれの立場で何か出来ることはないかと思い、考え、結実した組織が、兵庫県南部地震動物救援「東京本部」であった。「東京本部」を組織構成した11団体の詳細は、第一章で既に述べた。

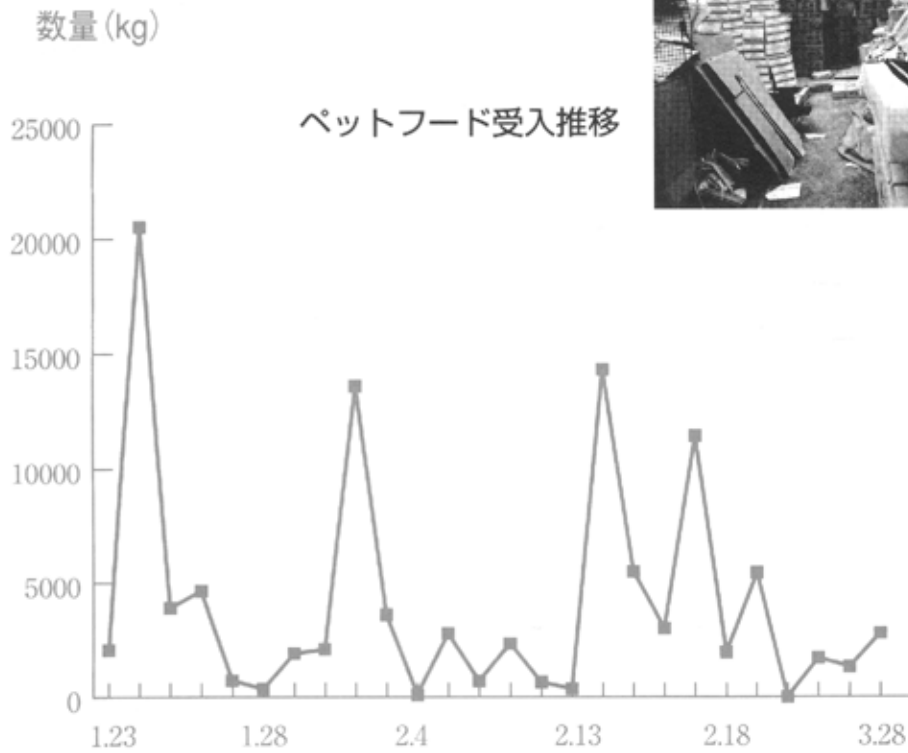
ペットフード

日本ペットフード工業会は、活動の初期に有り余るほどのペットフードを送った。

ここでは、3月28日までに、5つの施設に搬入されたペットフードの総量と状況を表とグラフにまとめてみた。搬入されたペットフードの総量は、1000頭の動物が毎日500グラム食べたとして、200日間以上にわたって供給出来る量であり、いかに大量のペットフードが救援物資として寄せられたか想像に難くない。グラフから分かるように、1～2週間の間隔で大量のペットフードが搬入され、保存する施設の確保に多くの苦勞があった。こうしたことから、今後の課題の一つとして、いわゆる計画的な救援物資の搬入が期待されるところである。

救援物資-ペットフード-

東部救援物資保管施設 尼崎市中央保健所動物管理事務所	41,282 kg
西部救援物資保管施設 兵庫県工業共済組合連合会 農済家畜臨床総合研修所	50,200 kg
神戸動物救護センター	4,952 kg
三田動物救護センター	9,023 kg
伊丹動物一時保護収容所	2,235 kg
合 計	107,692 kg



ペット用品

日本ペット用品工業会もまた、動物救援活動の初期に、必要なペット用品を神戸に送った。

救援物資-ペット用品-

ペットシート	15800枚
動物保管用ゲージ	420個
首輪	400個
食器	200個
輔乳ビン	50個
リード	500本
糞取り器	40ケース
猫砂	3750 Kg

(平成7年5月18日現在)(東京本部)

日 獣 発 174 号
平成 7 年 1 月 30 日

全国動物薬品器材協会

理事長 森 永太郎

動物用生物科学的製剤協会

理事長 野 村 吉 利

日本動物薬事協会

理事長 畦 地 速 見

殿

社団法人 日本獣医師会
会 長 杉 山 文 男

兵庫県南部地震動物救援活動に対する動物用医薬品等の供与について（協力依頼）

拝啓 本会の事業等につきましては、常日頃から種々のご理解、ご協力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

さて、去る 1 月 17 日未明に発生いたしました兵庫県南部地震につきましては、人に悲惨な大災害をもたらしただけでなく、家族の一員として飼養されていた犬や猫等の動物にも負傷や飼い主が不明となったりする等の被害が生じております。（被災動物の総数は、犬猫合わせて約 8,700 頭にのぼると推計されております。）

このため、被災地である兵庫県におきましては、（社）兵庫県獣医師会及び（社）神戸市獣医師会並びに（社）日本動物福祉協会阪神支部が構成団体となって「兵庫県南部地震動物救援本部」（現地本部）を設置するとともに、神戸市動物管理センター内及び三田市の 2 カ所に被災動物の救護施設を設置して被災動物を保護収容し、ボランティア獣医師による診療のほか、里親探し等の活動が積極的に展開されております。

つきましては、誠に厚かましい御願いで恐縮でございますが、この動物救護活動に必要な動物用医薬品及び器材を無償で現地本部に供与していただければ幸甚に存じます。

どうか事情をご斟酌のうえ、貴協会のご理解、ご支援を賜りたく何卒よろしく御願ひ申し上げます。

敬具

医薬品

負傷あるいは衰弱した動物たちの治療に必要な医薬品類は、(社)日本獣医師会を通して現地に送られた。

他の団体もまた、各々が利するところを生きし、救援物資の調達に総力をあげて取り組んだ。東京本部の構成団体を中心に、このようなバックアップなくして動物救護活動は成り立たなかったであろう。

動物救護活動は平成7年1月21日から始まり、平成8年5月29日まで、約16ヵ月にわたって続けられたが、この間、被災動物を救うために必要な全ての物資が無償で提供されたわけではない。寄せられた義援金によって、必要なペット用品あるいは医薬品類は随時購入された。しかし、少なくとも動物救護活動の初期には、必要な救援物資がほとんど全て無償で提供された。

救援物資-医薬品類-

ガーゼ	2360包	アンサイロール(注)	20本
サージカルテープ	118本	アンチセダン(注)	21本
ボルホカラー	960個	イソジン	3本
脱脂綿	36包	インターキャット20本	300頭分
注射器	18500本	エスビラックリキッド	1056箱
聴診器	3本	クロラムフェニコール(注)	10本
電子体温計	80本	ケタラール(注)	1本
包帯	120本	セラクター	2本
縫合糸	222本	デキサメサゾン(注)	320本
縫合針	120本	テラマイシン(注)	10本
輸液セット	1000本	テルベラン(注)	500本
翼状針	800本	ドヒバック5	400頭分
鉗子	60本	ドミツール	51本
		トリサーブ	100本
		トリブリッセン	300錠
		ドロンシット	20本
		バイトリル	100錠
		バナゲン	50頭分
		ピベラジン(錠)	2000錠
		ブドウ糖(注)	500本
		ベトラップ	327枚
		ペニシリン	10本
		マイシリンゾル	10本

神戸および三田動物救護センターに寄せられた主な医薬品類リスト(平成7年2月20日現在)

ボランティア活動を支えた救援物資

被災動物を救うために、懸命な活動を展開したボランティアのために、寝具、バスタオルなどの生活用品、お米、インスタント食品などの食品類、あふれるほどの善意の品々が、個人やさまざまな団体から寄せられた。生活必需品はもちろん、何でものまでと、思われる物まであった。

救援物資として、生活用品を寄せるとき、送る立場よりも貰う立場でものを考え、いわゆる不用なものを送らないことも重要なことであろう。

救援物資-ボランティアに寄せられた援助物資の主なもの-

食料品	毛布	その他
米	シーツ	マット
インスタント食品	タオル	ボンベガス
野菜など	衣類	自転車
電気器具	文房具	衛生用品
電気カーベット	文具	座布団
電気ストーブ	ノート	缶きり
石油ファンヒーター	ドクターメモ	保護情報
ファックス	事務用品	体重計
テレビ	コンピューターソフト	大工道具
洗濯機	雑誌	スノコ
その他の電化製品	書籍	新聞紙

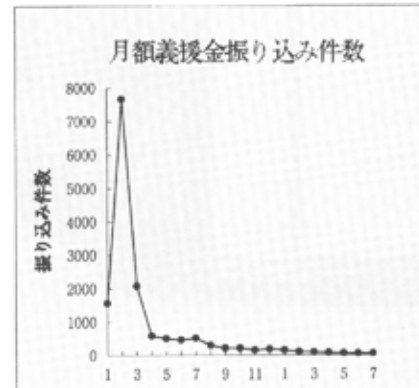
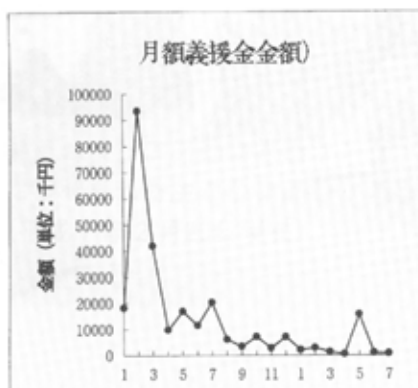
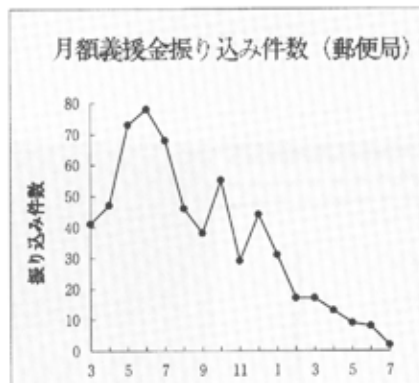
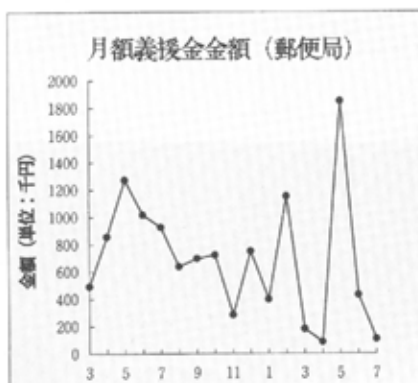
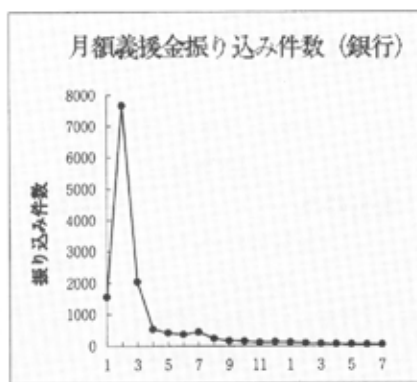
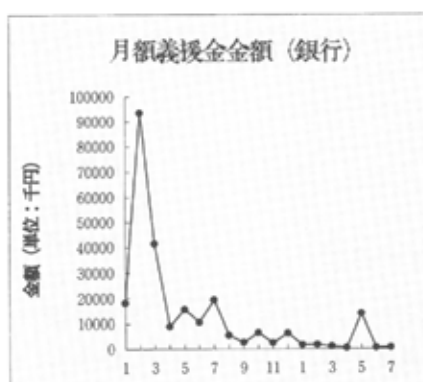


義 援 金

義援金の収支

平成8年10月末までに寄せられた義援金の総額は、264,792,032円にのぼる。既に述べたように、地震が発生してから2ヵ月以内に義援金総額の約半分、131,501,426円が寄せられていた。寄せられた義援金の件数は、14,911件にのほり、まさに予想をはるかに超えるものであった。

平成8年5月29日に神戸動物救護センターが閉鎖され、兵庫県南部地震動物救援本部の被災動物救護活動は完了した。しかしながら、その後も、件数ならびに金額は少ないものの、依然として寄付金が寄せられている。驚くべきことである。



全国からのお手紙

前略

この度の阪神大震災においてお亡くなりになられた方々、被災を受けられた皆様に心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。又、日夜小さな命の救援に当たっている皆様本当にご苦勞様です。

飼い主を失ったペット、被災され飼う余裕がなく手放される方、大変心が痛みます。何とか救いの手を差し延べたいと思っても力にも限りがあります。

先日、横浜でも里親を募集する会が開かれました。我家はすでに猫が2匹、いずれも拾った猫です。残念乍らそちらではお役に立つ事が出来ません。大変僅かですが、義援金を送らせていただきます。

1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

被災地での想像を絶する混乱の中での活躍、本当にご苦勞様でございます。

災害で路頭に迷う物言わぬ犬や猫たちに救援の手をさし伸べられる報を知りましてホッとしております。

本当にありがたいことだと嬉しく思っております。

少しですが義援金を1万円送らせていただきました。

皆様も健康に留意されお大事にご活躍下さいますよう祈っております。

(2月23日)

動物救援本部の皆様

前略

この度の大地震では大勢の方々が犠牲になられ心からご冥福を祈ると共に、同じように犠牲になった多くの物言わぬ小さな命にテレビで見たり考えるたびに涙しております。大ケガをして助け出された動物達が一匹でも多く助かりますように祈り、まだガレキの中で必死で助けを呼んでいるのではないかと、心を痛めております。

若くもなく、体力もなく、何もお手伝いも出来ませんが、5千円、わづかでございますが、同封致します。エサ代にでもなさって頂ければ幸いです。

5才になります2匹の猫とテレビを見乍ら「あの子達も早くよくなって又幸せに暮らしてくれるといいわね」と、神様をお願いしております。

ドクターはじめお世話されている皆さまのご健康と、ご活躍を神に祈り、皆さまのお働き感謝致しております。

過勞で皆さま、おカゼなど召しません様に。とりあえずお見舞いのみ

かしこ

(2月13日)

大震災被災お見舞い申し上げます。

大変なことではございました。動物達の世話をなさる皆様のご苦勞は如何許りかと存じます。

少額ですが同封いたします。私事で恐縮ですが、去秋、夫の会社が倒産致しましたので自宅を債権者に渡すため、生後28日目から六年間共に暮らしてきた2匹のゴールデンリトリバー犬を手放しました。

幸いなことに2匹揃って犬好きな家にもらわれて行きましたが、不条理な別れをしてしまった犬達にいつ迄も心が残ります。

被災された飼主の方々と動物達の心情を思いますと涙々です。わが家もこれから立ち上がらなければなりませんので何のお手伝いも出来ませんが、皆様のご苦勞ともの言えぬ動物達への愛のお心を忘れず、少しでも報われることがあることを念じて止みません。

「……神様は試練を与えたら、それを乗り越える力も与えられるのです」とは私の恩師が私におくって下さった言葉です。被災された方々に、一日も早く春が訪れることを記念しております。

呉々もご健康にお気をつけてお過ごしくださいませ。

かしこ

(2月19日)

動物救護センター様

阪神大震災の被害にあわれた全ての生きとし生けるものにお見舞い申し上げます。

我家には猫が2匹おります。地震の時は、「絶対助けてあげるからね!」と言っていますが、東京で起きたらどうなりますか?

些少ですが、お役立てていただきたく贈ります。救援にあたる方々も呉々も気を付けて下さい。被災地の早い復興をお祈り申し上げます。
(平成7年2月10日)

前略

この度の大災害心からお見舞い申し上げます。皆様方のご援助活動ほんとうに大変なごとと存じます。お手伝に伺うことが出来ず心苦しく思います。

新聞やテレビ報道では知ることが出来ますが、実際その場に立つといかに大変なことかご推察出来ます。

同封にてほんとうにわずかですがエサ代他にお役に立てていただければと思います。動物も同じ災害に合ってきつとおどろいている事でしょう。私も捨猫と現在一緒に生活していますし又、会社へもエサを無心に毎日2匹来ています。

皆様もお身体に充分お気をつけて長期間かかりそうですが、がんばって下さいませ。

心から早く一日も早く復興をお祈りしています。
(平成7年2月20日)

兵庫県南部地震動物救援本部様

前略

先日は失敬しました。

早速ですが受け付けの募金箱にたまった浄財をお送りします。¥20,081。 当院ではこれで3回目になります。振込用紙をはりつけ募金者に知らせています。どこの団体へでもけっこうです。何か目安になるものをお送り頂ければ幸いです。

先生の御苦勞と活躍に頭の下がる思いです。頑張ってください。

(動物病院)

神戸市動物救援センターの

ボランティアの皆様へ

雑誌で震災によって被害を受けたペットのことを知りました。

義援金とか物資がたくさん神戸に贈られたと思いますが、今の日本の行政では、ペットまでには届かないだろうと思い、使い古したタオルやシーツなら少しでも役立つかもしれないと思い送ることにしました。動物達も、言葉には出せないけれど深く傷ついていると思います。

どうか、ボランティアの皆さんも、体にご気をつけて、頑張ってください。

義援金の収支の表を以下に示す。

兵庫県南部地震動物救援本部義援金収支一覧表

平成7年1月21日～平成8年10月31日

収入の部		支出の部		本部	神戸	三田	伊丹
寄付金	264,792,032	給料	29,041,865	11,392,597	10,529,948	7,119,320	
雑収入	1,994,076	その他需用費	18,300,903	3,729,282	6,359,890	8,154,526	57,205
		賄材料費	6,976,415		4,721,705	2,254,710	
		医薬材料費	4,431,821		2,517,800	1,914,021	
		通信運搬費	4,065,361	2,129,366	1,060,547	875,448	
		燃料費	823,466	22,655	566,076	234,735	
		光熱水費	1,675,553			1,675,553	
		工事請負費	83,525,915		39,874,653	43,102,262	276,000
		備品購入費	13,003,934	1,883,313	3,871,628	7,075,953	173,040
		使用料及び賃借料	8,906,618	2,445,138	4,807,880	1,653,600	
		保険料	898,960	678,900	220,060		
		謝金	100,000			100,000	
		旅費	948,100	725,610	108,970	113,520	
		※治療費	367,779		167,769	200,010	
		修繕費	263,283		263,283		
		公租公課	30,400	3,000	27,400		
		雑費	95,265	95,265			
		シンポジウム費	481,384	481,384			
		※委託料	4,066,000	4,066,000			
		※不妊手術費	2,432,500		2,177,500	255,000	
		※賠償金	2,647,694		2,647,694		
計	266,786,108	計	182,810,216	27,652,510	79,922,803	74,728,658	506,245
		普通預金残高	3,975,892	3,975,892	0	0	0
		定期預金残高	80,000,000	80,000,000	0	0	0
合計	266,786,108	合計	266,786,108	111,628,402	79,922,803	74,728,658	506,245

単位
円

※委託料 賃料処理料 300,000 ※治療費 ボランティア治療費 ※不妊手術費用 救援本部半額負担
報告書作成費 3,066,000 ※賠償金 備品、破損、修理弁済分
会計監査料 700,000

マスメディアの対応

地震直後から数日間、動物に関する話題は「救助犬」であった。1月19日付け毎日新聞夕刊に、スイス災害救助隊の記事が掲載されたのち、数々のマスメディアがこの話題を取り上げている。

「被災動物」に関する新聞記事が紙上に取り上げられたのは、1月21日付け東京スポーツの「行き場がない犬や猫」が最初かもしれない。その後、兵庫県南部地震動物救援本部が設立された(1月21日)あと、ほとんど連日、どこかの新聞紙上に「被災動物」に関する記事が掲載された。

一方、テレビやラジオも、ニュース番組など、さまざまな形で取り上げた。一つのトピックスとして大きく取り上げたのは、2月13日放送のFNNスーパータイム「ペットの叫びが聞こえる」であったと思われる。

このようなマスメディアによる報道があったあとには、必ず多数の義援金が寄せられた。もちろん、「マスメディアの対応と義援金」との間に明らかな相関があるのははっきりした証拠はない。しかし、これほど多数の、また多額の義援金が寄せられたバックには、間違いなくマスメディアの報道があった。



救 援 グ ッ ズ

背景

被災動物を救うために、結果的には予想をはるかに超える救援物資と義援金が寄せられた。しかし、活動の当初には、限りない不安があった。どれほどの寄付金が寄せられるか予想もつかず、被災動物の救護活動を続けていくために、ただ善意に頼るだけでは困難であろうとの思いが、「救援グッズ」という形になった。

有志グループ

当初は、神戸市獣医師会の事業として救援グッズの販売を考えた。しかし公益法人として収益事業はなじまないことから、神戸市獣医師会々員3名の有志グループに救援グッズの取り扱いを依頼した。尾谷幸男、井上昌信、藤原賢治の3名である。

救援グッズのデザインと制作

ボランティア獣医師として、活動の当初から、動物救護センターの設営と運営に献身的な活動をした神奈川県川崎市の馬場国敏獣医師の長女 馬場美加子さんが、三田動物救護センターに保護されたセントバーナード犬をモデルにデザインした。

制作会社も被災し、人も資材も仕入れる資金もなかった。しかし、「救援グッズ」の主旨を理解し、全面的な協力を得て制作が開始された。



- Tシャツ
- トレーナー
- ポロシャツ
- ウィンドブレーカー

販売と売り上げ

当初、神戸動物救護センターならびに神戸市獣医師会に所属する動物病院だけで販売されていた。しかし、新聞、雑誌、ラジオなどマスメディアで紹介されたことから、全国各地から注文が寄せられた。こうしたことから、(社)日本獣医師会および近畿地区連合獣医師会に依頼し、全国地方獣医師会・各動物愛護団体・個人の協力を得て、販売を拡大した。また、オタニ動物病院を窓口にも、郵送およびファックスによる全国からの注文も受け付けた。さらに、パシフィコ横浜で開催された「動管法施行20周年および世界獣医学大会開催記念動物シンポジウム」などさまざまな催しに際し、「救援グッズ」コーナーを設け積極的に販売された。

売上金はすべて兵庫県南部地震動物救援本部に届けられた。その総額は平成8年5月29日現在で、約1,900万円にのぼった。

阪神大震災で被災した動物に愛の手を!

「ANIMAL+RESCUE」ロゴマーク入りグッズ発売中。



この商品の収益金は、神戸動物救護センター (078-741-8112) を通じて被災した動物の救護活動に使用させていただきます。

主催 神戸動物救護センター
 協賛 神戸市獣医師会
 小日本動物福祉協会 阪神支部

近畿、地方獣医師会、ならびに愛護団体の対応

近畿地区連合獣医師会

(社)大阪府獣医師会は、1月19日に「兵庫県南部地震の被災動物の救護援助について」の連絡を開業獣医師に送り、会員の協力を要請した。同様に(社)大阪市獣医師会もボランティア獣医師の派遣ならびに募金活動など、個々の会員と組織が一体となって、動物救護活動を支えた。

(社)横浜市獣医師会

東京本部の構成員としての(社)横浜市獣医師会の活動には、目を見張るものがあった。詳細は、後述する第四章「ボランティア」の章で述べる。

愛護団体の果たした役割

わが国における動物愛護団体の日常活動にはそれぞれに特有のものがあり、協調性において考えるべき問題点を種々抱えている。

しかしながら、この度の震災においてはそれぞれが独自にあるいはネットワークを組み目覚ましい働きをした。ある団体は初期から被災動物の保護に乗り出し、また、別の団体や個人も動物の保護やフードの配給、里親探し、不妊手術の実施に、また、救援グッズの販売にも尽力した。特に財団法人動物愛護協会は兵庫県南部地震動物救援東京本部の事務局として多大な貢献をした。

財団法人動物福祉協会も地元阪神支部は当事者として兵庫県南部地震動物救援本部の構成員としてその役割を担った。

(社)大阪府獣医師会の対応

大獣発 第128号

平成7年1月19日

開業部会々員 各位

会長 難波 博

部会長 三溝直人

兵庫県南部地震の被災動物の救護援助について（連絡）

このことについては本会々員で被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて、今回の災害で、飼主が災害を受け、飼育が困難になった動物が多数放浪している模様で、現地獣医師会々員も夫々手分けして救護に当たっておられるが、当社大阪府獣医師会に対し援助、助力の申出があった場合は、皆様の暖かいご援助、引き受けについて、ご理解、ご協力を賜ります様各支部長殿を中心にご相談置き下さることをお願い申し上げます。尚被災動物の飼料については、マスターフーズ社の全面的協力を取付けました。

又、全国的に社日本獣医師会から援助義援金の募集についての協力のお願いがあるものと思われ、今後何かとご協力をお願いすることと存じます。一方一般市民の方の義援の申出があった場合は、本会事務局へご連絡下さい。